※令和４年度以降入学生用

学校番号	329

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	歴史総合	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	久保文明・中村尚歴ほか『現代の歴史総合　みる・読みとく・考える』（山川出版社）						
副教材等	現代の歴史総合ノート編集部『現代の歴史総合　みる・読みとく・考える　ノート』（山川出版社）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・「歴史総合」では、近現代を中心に、資料を活用しながら歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して「歴史の学び方」を学びます。
・基礎的な知識を獲得するとともに、知識を活用して自分で考えることが重要です。考えていくなかでうまれてきた「なぜ？」という自分なりの「問い」について考えていくことで、課題を追究したり解決したりする力をつけていきます。

2　学習の到達目標

(1)　近現代の歴史の変化に関わる諸事象について，世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え，現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに，諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
(2)　近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義，特色などを，時期や年代，推移，比較，相互の関連や現在とのつながりなどに着目して，概念などを活用して多面的・多角的に考察したり，歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や，考察，構想したことを効果的に説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。
(3)　近現代の歴史の変化に関わる諸事象について，よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究，解決しようとする態度を養うとともに，多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚，我が国の歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	知識：近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。 技能：諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
１学期	歴史の扉	①歴史と私たち　現代の私たちと旅	a：「旅」を題材に私たちの生活や身近な地域などにみられる諸事象が、日本や日本周辺の地域および世界の歴史とつながっていることを理解している。 b：諸資料や図版などから適切に情報を読みとり、その時代の旅の様子や現代との異同を判断している。 「旅」を題材に近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と関わらせて、日本や日本周辺の地域および世界の歴史との関連性について考察し、表現している。 c：身近な題材に対して自ら「問い」を立て、歴史との関連を追究しようとしている。	考査における知識問題	考査における資料読み取りなどの応用問題 パフォーマンス課題	個人作業・グループワークやペアワークによる意見交換および発表 ノートで設定されている「問い」への回答

※令和４年度以降入学生用

		②歴史の特質と資料　歴史資料とは何だろうか	a：憲法制定を題材に、資料の種類・特性や作成の時期・場所・主体・目的・脈絡等をふまえた批判的な読みとりと吟味が重要であることを理解している。 b：資料や図版などから適切に情報を読みとり、時期や立場による書かれ方の違いなどを判断している。 憲法制定を題材に複数の資料の関係や異同に着目して、資料から読みとった情報の意味や意義、特色などを整理し、表現している。 c：資料から読みとったことを生徒相互に発表したり、対話したりするなどして、資料にもとづいた考察をしようとしている。資料を読みとる際の注意点を整理し、学習への見通しを立てようとしている。	考査における知識問題	考査における資料読み取りなどの応用問題 パフォーマンス課題	個人作業・グループワークやペアワークによる意見交換および発表 ノートで設定されている「問い」への回答

※令和４年度以降入学生用

	第Ⅰ部　近代化と私たち	第1章　結びつく世界と日本の開国	1　18 世紀の東アジアにおける社会と経済 2　貿易が結んだ世界と経済 3　産業革命 4　中国の開港と日本の開国	a：教科書の本文、諸資料などから 18 世紀の東アジアにおける社会と経済の特徴、貿易を通じて日本や中国、欧米諸国が経済的につながっていたこと、産業革命の背景や影響などについて理解している。 b：諸資料の読み取りを通して 18 世紀の日本や中国の特徴や相違点を考察し、世界経済の中での東アジアの位置および、中国と日本が新たに抱えた課題の共通点や相違点について考察している。 c：18 世紀の中国や日本と世界の結びつきについて、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連付けて追究し、その後の学習につなげようようとしている。	考査における知識問題	考査における資料読み取りなどの応用問題 パフォーマンス課題	個人作業・グループワークやペアワークによる意見交換および発表 ノートで設定されている「問い」への回答

※令和４年度以降入学生用

		第2章　国民国家と明治維新	1　市民革命 2　国民国家とナショナリズム 3　明治維新 4　日本の産業革命 5　帝国主義 6　変容する東アジアの国際秩序 7　日露戦争と東アジアの変動	a：教科書の本文、諸資料などから、市民革命の歴史的意義を理解し、国民国家を形成しようとする動きが 19 世紀になって広まったことを理解している。そのなかで日本の政治体制の変化の原因・展開や産業革命の背景・影響を理解している。教科書の本文、諸資料などから帝国主義を進めた諸国の共通点と相違点を理解している。また、東アジアにおいて日本が領土の確定や条約改正を通して主権国家としての近代化をめざしたこと、日清・日露戦争を通して国民の対外意識が変化したことを理解している。 b：　諸資料を適切に読み取り、国民国家の形成がもたらした影響や課題について考察している。日本の立憲国家の成立過程の特徴を欧米の事例と比較して整理し、幕末における自由貿易と国内産業の再編が、資本家層の形成につながったことと、産業革命や資本主義成立との関連について考察している。ヨーロッパ諸国における帝国主義と国民国家の関係について考察し、産業革命後の列強が抱える経済的な諸問題と植民地獲得の動機について関連付けて考察している。この時期における中国・朝鮮・日本の変容の歴史的経緯について欧米列強の動きと関連付けて考察し、表現している。 c：国民国家の形成について、見通しをもって課題に取り組み、自身の問いと関連付	考査における知識問題	考査における資料読み取りなどの応用問題 パフォーマンス課題	個人作業・グループワークやペアワークによる意見交換および発表 ノートで設定されている「問い」への回答

※令和４年度以降入学生用

				けながら追究しようとしている。日本はどのようにして国民が政治に参加する国になったのかという問いについて課題に取り組んでいる。また、欧米と日本の産業革命の特徴は何かという問いに対して自身の問いと関連付けながら追究しようとしている。 帝国主義と植民地化の進展について、見通しをもって課題に取り組むとともに、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較し、帝国主義政策の特徴や列強間の関係がどのように変化したのかという問いに対して自身の問いと関連付けながら追究しようとしている。			

※令和４年度以降入学生用

２学期	第Ⅱ部　国際秩序の変化や大衆化と私たち	第３章　総力戦と社会運動	１　第一次世界大戦の展開 ２　ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭 ３　ヴェルサイユ体制とワシントン体制 ４　世界経済の変容と日本 ５　アジアのナショナリズム ６　大衆の政治参加 ７　消費社会と大衆文化	a:教科書の本文、諸資料などから第一次世界大戦の総力戦という特徴を理解し、その中からソ連が成立したことや、戦後に成立したヴェルサイユ体制・ワシントン体制の内容を理解している。 諸資料から、　第一次世界大戦が日本に与えた影響を理解し、欧米では総力戦への協力等により参政権が拡大し、大衆が政治に参加するようになったこと、それにより大衆社会が出現し、大量生産・大量消費を前提とする消費社会が出現したことを理解している。 b:第一次世界大戦について、それまでの戦争と比較しながら考察し、諸資料からパリ講和会議・ワシントン会議の各国の立場の違いについて考察している。諸資料の読み取りから、日本の経済状況の変化について考察して表現し、世界的な流れをうけて日本でも大正デモクラシーが成長したことについて考察している。大量生産・大量消費がもたらした大衆文化の広がりと、新たな課題について考察している。 c:第一次世界大戦に関するプロパガンダポスターを読み取るなかで、内容に関心を持ち、それらの意味について自分なりに考察しようとしている。ヴェルサイユ体制・ワシントン体制に生じた課題と、その課題が次の大戦を防げなかった理由を考察しようとしている。 日本の大戦景気のなかで可	考査における知識問題	考査における資料読み取りなどの応用問題 パフォーマンス課題	個人作業・グループワークやペアワークによる意見交換および発表 ノートで設定されている「問い」への回答

※令和４年度以降入学生用

				視化された格差や戦後の不況から生じた経済的な要求と大衆運動の関係などの視点を持ち、その後の学習につなげようとしている。大正時代には権利獲得運動が一定の成果を得られたのはなぜかという問いや、大衆文化がどのように発展したのかという問いに対して、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連付けながら追究しようとしている。			

※令和４年度以降入学生用

		第４章　経済危機と第二次世界大戦	1　世界恐慌の時代 2　ファシズムの伸長と共産主義 3　日中戦争への道 4　第二次世界大戦の展開 5　第二次世界大戦下の社会 6　国際連合と国際経済体制 7　占領と戦後改革 8　冷戦の始まりと東アジア諸国の動向 9　日本の独立と日米安全保障条約	a:アメリカの大恐慌とヨーロッパや日本がどのように結びついているのか理解している。 諸資料から、ムッソリーニ政権とヒトラー政権の共通点や特色、大衆から支持を受けた社会的背景を理解し、ファシズムの伸長によりヴェルサイユ体制が崩壊したことを理解している。 満州事変と日中戦争が持つ共通点と相違点について、国際関係の変化を含めて理解している。 諸資料から、第二次世界大戦勃発の背景と大戦の推移、連合国の経済などの展開や、戦時下での民衆動員や、民衆の大規模な犠牲が生じたことを理解している。 国際連合が形成されてきた過程・課題を国際連盟と比較しつつ理解し、戦後のドイツと日本の占領体制の違いから、日本の政治・社会の体制がアメリカの強い影響力の下で形成されたことを理解している。 諸資料から、米・英・ソの関係がどのように変容し、冷戦構造ができていったか理解し、東西の緊張の高まりが、連合国の日本における占領政策を転換させたことを理解している。 b:諸資料を読みとり、世界恐慌による経済状況や政策の転換点について考察し、表現している。ファシズムが伸長した背景とその特徴を、ムッソリーニ政権とヒトラー政権を比較しつつ考察し、表現している。	考査における知識問題	考査における資料読み取りなどの応用問題 パフォーマンス課題	個人作業・グループワークやペアワークによる意見交換および発表 ノートで設定されている「問い」への回答

※令和４年度以降入学生用

				地図や諸資料の読み取りを通して満州事変と日中戦争がどこで展開し、どのような被害があったかについて考察し、表現している。 第二位世界大戦が大規模で凄惨かつ長期化した戦争となった背景と、大戦の推移を考察し、表現している。国際連合の特徴やその課題を、国際連盟と比較するなどして考察し、表現している。諸資料をもとに日本とドイツの占領体制の共通点と相違点を適切に判断し、冷戦体制の文脈の中でその影響や結果を考察している。 冷戦の表面化とその特徴を考察し、表現している。諸資料をもとにアメリカの占領政策が転換した原因やその影響について考察している。 c：世界恐慌が日本やヨーロッパ諸国をどのように巻き込み、各国はどのように対応したのかという問いや、ファシズムの伸長とヴェルサイユ体制の崩壊、共産主義勢力の対応について、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連付けて追究しようとしている。 世界恐慌以降の経済危機と中国における国内変化が、日本の政治や軍事行動にどのような影響を与えたのかという問いに対して、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連付けて追究しようとしている。 第二次世界大戦中の戦後構			

※令和４年度以降入学生用

				想や原爆の投下が、その後の世界に何をもたらしたのかという視点をもち、その後の学習につなげようとしている。 国際連合や新たな国際体制はどのように形成されたのかという問いについて、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。 占領は日本をどのように変えたのかという問いについて、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 世界の分断はどのように表面化し進んだのかという問いについて、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。 日本はどのようにして国際社会に復帰したのかという問いについて、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。			

※令和４年度以降入学生用

３学期	第Ⅲ部　グローバル化と私たち	第５章　冷戦と世界経済	１　冷戦下の地域紛争と脱植民地化 ２　東西両陣営の動向と 1960 年代の社会 ３　軍拡競争から緊張緩和へ ４　地域連携の形成と展開 ５　計画経済とその波及 ６　日本の高度経済成長 ７　アジアのなかの戦後日本	a: 諸資料から、冷戦がアジア・アフリカ諸国に対して与えた影響と冷戦に対するアジア・アフリカ諸国の反応を理解している。 諸資料から、1950 年代のアメリカ合衆国や西ヨーロッパ諸国の動向およびアメリカと西ヨーロッパ諸国の関係の変化を理解している。 教科書の本文、図、諸資料などから核兵器の開発と抑制の動きを理解している。 イギリスの EC 加盟を妨害するド＝ゴール大統領の風刺画に描かれている内容を正しく読みとり、ヨーロッパ統合の歩みと諸地域の統合の図を理解することができている。 教科書の本文、図、諸資料などから計画経済とその波及についての特徴を理解している。 諸資料をもとに高度経済成長へと至る経緯について整理し、国際的・国内的な諸条件にもとづいて高度経済成長が達成されたことを理解している。 教科書の本文、年表や資料から中華民国・中華人民共和国および韓国との関係構築が、アメリカ合衆国の東アジア政策の影響を受けながら展開したことを理解している。 b: 朝鮮戦争や中東戦争、インドシナ戦争、ベトナム戦争など冷戦下の地域紛争の要因とその影響を考察し、表現している。 1950 年代のアメリカ合衆国と西ヨーロッパ諸国との関係の変化について考察し、	考査における知識問題	考査における資料読み取りなどの応用問題 パフォーマンス課題	個人作業・グループワークやペアワークによる意見交換および発表 ノートで設定されている「問い」への回答

※令和４年度以降入学生用

				表現している。 キューバ危機によって世界がどのように変化したのかについて考察すると同時に、ケネディ大統領のフルシチョフ宛書簡を正しく読みとり、米・ソ双方の思惑と譲歩の内容について考察している。 イギリスを妨害するド＝ゴール大統領の風刺画を読みとったうえで、なぜド＝ゴールがイギリスの EC 加盟に反対したのかについて考察できている。 諸資料から日本の賠償が日本と東南アジア諸国との経済的な結びつきに与えた影響を判断している。 c：冷戦下でアジアやアフリカ諸国はそれぞれどのような動きを見せていたのだろうかという問いに対して、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。 1950 年代・60 年代の東西両陣営の社会の変容について、学習の見通しをもって取り組むとともに、自身の問いと関連づけて追究しようとしている。 米・ソの核兵器数の推移とその歴史的背景について、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 高度経済成長をもたらしたものとその影響について、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。			

※令和４年度以降入学生用

				戦後処理を通じて、日本とアジアの国々がどのような関係を結んだのかという問いについて、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。			

※令和４年度以降入学生用

		第6章　世界秩序の変容と日本	1　石油危機 2　アジア諸地域の経済発展 3　市場開放と経済の自由化 4　情報技術革命とグローバリゼーション 5　冷戦の終結とソ連の崩壊 6　現代の東アジア 7　東南アジア・アフリカ・ラテンアメリカの民主化 8　地域統合と国際社会 9　地域紛争と国際社会 10　現代と私たち	a:教科書本文や諸資料から、石油危機やドル=ショックの背景・展開と、人々に与えた影響について理解している。 1970 年～2000 年代にかけてアジアの GDP 推移グラフを正しく読みとり、アジアの諸地域の経済発展の特徴や政治的背景を理解している。 経済のグローバル化が世界と日本にどのような影響を与えたのか、新自由主義とはどのような政策なのかを理解している。 19～21 世紀に関する諸資料を適切に読みとり、情報通信技術革命が世界経済に与えた影響と、新たに生まれた課題について理解している。 ソ連への改革が始まった背景と、ソ連の改革が東ヨーロッパに及ぼした影響、冷戦終結によりソ連がどのように崩壊したかを理解している。 諸資料を読み取り、中国がどのように経済大国化したか、東アジア諸国の民主化と国際関係の相互関係、高度成長後の日本が抱えた課題について理解している。 東南アジア・アフリカ・ラテンアメリカの民主化の進展度合いを比較しつつ、開発途上国の民主化において国際世論が果たす役割について理解している。 地域統合の種類と、それぞれの地域における賛成派・反対派の存在、地域統合の課題について理解してい	考査における知識問題	考査における資料読み取りなどの応用問題 パフォーマンス課題	個人作業・グループワークやペアワークによる意見交換および発表 ノートで設定されている「問い」への回答

※令和４年度以降入学生用

				る。 安保理に関する資料などから、冷戦終結後の地域紛争の拡散やそれへの対応について、理解している。 エネルギー開発や自由貿易、核軍縮など、20 世紀後半に推進された方法や考え方が 21 世紀初頭に見直されるなど、決して単線的に物事が進行しているわけではないことを理解している。 b：原油価格の推移のグラフをふまえて、日本が石油危機にどのように対応したのかについて考察している。 イランやインド、東南アジアなどの事例を比較し、アジア諸地域の経済発展を可能にしたものは何かを考察している。 諸資料からアメリカにおける収入の差やサッチャーが目指した政策、日本の３公社の民営化の背景を読み取り、グローバル化が世界と日本に与えた影響について考察している。 インターネット普及率や 19 世紀、20 世紀の通信に関する諸資料から通信網の整備と国際経済の発展との関連について考察している。 ソ連のアフガニスタン撤退やベルリンの壁開放の写真、ソ連末期のポスターを読み取り、なぜ冷戦が終結しソ連が崩壊したかを考察している。 写真やグラフなどの諸資料から、中国の経済成長や国際社会における地位の			

※令和４年度以降入学生用

				変化、韓国と北朝鮮の経済状況の差異の広がりやその時期の政策の変化を関連づけて考察している。 諸資料などを読みとり、東南アジア・アフリカ・ラテンアメリカ各国の民主化における国際世論の影響について考察している。 諸資料などを読みとり、各地域統合・自由貿易協定の課題、その課題と日本のかかわりについて考察している。 冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割、小規模紛争の拡大や、国連機構の機能する場面と機能しない場面が生じた原因について考察している。 グラフを読みとったり、比較したりしながら今後の日本社会の動向やそれによって生じる社会の影響について考察し、これからの社会が直面する課題や、その望ましい解決策について、歴史上の類似事例を根拠としてあげながら考察、表現している。 c： 日本の生活必需品の価格変化の表を読みとり、意味するところを考察するとともに、現在価格を店頭で調査し比較するなど見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 OPEC の設立の図を分析して、OPEC が結成された背景を類推し、OPEC における発言力が強い地域を考察するなど見通しをもって課題に取り組むととも			

※令和４年度以降入学生用

				に、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 19 世紀末の「大不況」と 20 世紀末の「地殻変動」の表から、「新しい資本主義国の確立」がなされた理由を、教科書の様々なページやほかの資料などを調べながら考察するなど、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 情報技術革命は世界をどのように変えたのかという問いについて、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 ゴルバチョフの改革に関連したアネクドートや改革後の問題の風刺画を読み解き、ソ連解体につながる歴史的背景について考察し、独立国家共同体の地図から、旧ソ連時代以来の領土問題について考察しようとしている。 今日の東アジアの国々にはどのような課題があるのかという問いについて、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 東南アジア・アフリカ・ラテンアメリカ各国の民主化の課題と現状をふまえて、どのような活動が必要かについて考察しようとしている。 各地域統合・自由貿易協定の課題に対する解決手段			

※令和４年度以降入学生用

				について、自らの問題として考察しようとしている。 冷戦の終結は協調と平和をもたらしたのかという問いについて、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連づけながら追究しようとしている。 現代の諸課題について、これまでの学習を振り返りながら自ら現代的な諸課題に対する問いを設定し、追究しようとしている。資料の読みとりや考察の結果などを他者と共有し、相手や自分の考察を一層深めようとしている。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度